



三浦本部長
6日

出荷停止の肉牛農家を訪問(桃生)

10頭の肉牛を育てている小山さんは、7月21日東京芝浦の市場に行く予定でしたが「値がつかない」といわれ出荷を見合わせました。
放射能汚染ワラ問題で宮城県も深刻な事態になりました。
肥育牛は、子牛を30万〜40万で購入し20ヶ月間育てます。その間のえさ代は25万ほどかかります。糞尿処理など手間隙かけて育てますが、70万〜80万で引き取られても15〜30万の粗利益にしかなりません。4月の出荷では風評被害による値崩れで、3千3百円の粗利益にしかならず、大きな赤字で畜産経営に大きな打撃となっています。
全頭検査は当然のことであり、仮に放射能汚染が無くても相対値が下がることが心配になっている。東電と政府に全額弁償してもらいたい。

鹿妻で【無料大バザール】 5度目



開始の挨拶をする三浦一敏本部長

30を越す気温と照りつける熱射の中でスイカを配り、並んで待っている被災者にも笑顔が。
東京中央区や川崎から30人のボランティア。水沢市議も大奮闘

お困りごと
相談ごとは

日本共産党石巻市議団へ

仮設住宅とはいうものの...



掃き出しと窓の複合口



半畳の窓が一枚だけ



仮設住宅に移られた被災者から仮設住宅への不満が。
救援センターでは仮設住宅への聞き取り隊をしているが、寄せられた要望は「玄関の網戸」だけにとどまらない。
県は、「一定の規格によるプレハブ」と公表しているが調べてみると大きな格差があることが伺える。
建設メーカーの違いや規格の解釈の違いなのかマチマチです。
小さい窓がひとつしかない被災者は、「座卓に座ると外の様子が見れず薄暗い。防犯上も老人の見守り上も不便だ。」と話します。

右の写真は石巻市内にある仮設住宅の玄関で、幅が51センチメートルしかなく障害者のいるご家庭に提供されたものです。父兄は、車椅子で生活している子どもが車椅子では入れず、「出入りするたびに窓から運び入れます」と語ります。部屋の中も段差があり、障害者用の設計になっている仮設住宅ではありません。被災者の視点に立った仮設住宅も必要ではないかと感じます。



湊夏祭り 盛大に



7日夕、避難所になつている湊小学校を会場に「湊に笑顔の花が咲く」を合言葉に夏祭りが開催されました。多くのボランティアが準備し、出展やステージイベントが行われフィナーレはやぐらを囲んでの盆踊りで締めくくられました。
湊再生を願う地域の方々多数が参加した。「庄司市議のおかげでこの祭りもやる事ができた」と参加者の声が聞かれました。